

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：吉野川流域地区 コウノトリ定着推進連絡協議会

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：NPO法人の認定化による資金システムと活動体制の強化			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>令和元年度にコウノトリをはじめとする希少鳥類の保護と地域農業や地域経済の活性化を目的とする「NPO法人とくしまコウノトリ基金」を設立し、活動体制を再構築した。このNPOを「認定NPO」化することによって、より強固な資金システムと活動体制を確立する。</p> <p>認定NPO法人では、より多くの寄付の獲得が可能となる。参加企業等には、地域の環境や文化に関する研修、ボランティアイベント等のプログラムを提供するほか、インセンティブの強化策を検討する。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	ビジョン実現のためには、より充実したプラットフォームと資金システムが必要のため。	
	②どの地域資源を活用するか	多数のコウノトリの飛来、コウノトリの営巣・繁殖、企業、地域住民、官公庁、コウノトリファン、ボランティア、都市との連絡に便利な地理条件	事業を実施するための、マンパワーとノウハウが不足している。
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	協力企業等のインセンティブ、企業研修プログラム、ボランティアイベント	
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	NPO法人とくしまコウノトリ基金、コウノトリの野生復帰及び地域農業や経済活性化を実施したい地域住民、大学、企業等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	より多くのヒトとカネが地域へ流れ込み、それによる環境保全活動、経済活動が活発化し、さらに地域内外へ波及していく。	県外のCSRに興味のある企業、オープン基金等資金集めのノウハウをもつ仕掛け人、認定NPO化のノウハウを有する個人・団体

2 事業名称 他組織との連携による環境活動と経済活動の連携強化			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>国交省が組織する吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会等と連携して、河川整備に伴う地域ぐるみでの自然再生事業やエコツアー企画に参画し、地域団体や企業との連携を深め、環境保全活動と経済活動のパワーアップを図る。</p> <p>自然再生事業では、計画策定から完成後の維持管理に参画する。</p> <p>エコツアーでは、インバウンドも視野に入れた企画を策定し、観光事業者等による実施を促す。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	コウノトリ復活にも地域経済にも不可欠な農業の持続的発展に向け、環境保全につながる活動で地域経済が活性化する仕組みをつくるため。	
	②どの地域資源を活用するか	地域の河川・自然、コウノトリを育む多様な生物、地域の農業、地場産業、県内企業、県内有識者・学生、地域住民、官公庁	自然再生事業後の維持管理に要する資金、マンパワーの確保。
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	自然再生事業によるピオトーブや公園整備、エコツアーの開発、実施	地域の自然が提供できる観光資源としての価値と参加者負担のバランスの見極め、エコツアーの対象とする客層の設定、旅行者のニーズの把握等エコツアーを継続させるための情報収集とエコツアーのブラッシュアップ。インバウンドの受け皿となり得る主体の育成。
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会、NPO法人とくしまコウノトリ基金、イースト徳島観光推進機構等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	地域の豊かな自然に観光資源としての価値を見だし、地域外へエコツアーとして発信することで、カネが地域へ流入する。カネの流れが環境保全の活動を活発にし、豊かになった環境はさらに経済を活性化にするカネとシゼンとの循環が生まれる。	旅行業者、ツアーブロッカー、観光ホテル等 特に国内都市部や海外からの誘客に強みを持つ専門家

3 事業名称 コウノトリブランド商品の開発、推進、拡大			
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック	
<p>鳴門市の「コウノトリおもてなし」認証を受け、かつ「特別栽培」の「コウノトリおもてなしれんこん」をコウノトリを支えている商品であることを強くアピールし、エンカル、SDGsの視点も取り入れながら、生産者団体や県、市を中心に販路拡大に取り組み、地域農業の活性化を図る。</p> <p>さらには、新たな「コウノトリおもてなし」認証の対象となる「特別栽培」の米について検討を進める。</p> <p>また、農産物の未利用資源を使った加工食品、地場産品との連携商品の開発のほか、グッズ類などにロゴマークを使用するコウノトリブランド商品の開発やPRに取り組み、地域の商工業の活性化を進める。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	「コウノトリ」の「のれん」を地域資源と結びつけ、地域経済を活性化することで、コウノトリをまより地域活性化を地域に定着させるため。	
	②どの地域資源を活用するか	コウノトリ、環境に優しい農業、地域の伝統文化・景観、豊かな農産物、多様な地場産業	認証農産物やコウノトリブランド商品の数を増やす必要あるとともに、認証やブランドによる付加価値をわかりやすい形で示していく必要がある。そのため情報発信のあり方、販売のプランニング、市場調査など、これら農産物や商品が主要なブランドとなる売り場、客層、活用シーンの提案などのコーディネートが必要。
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	コウノトリおもてなしれんこん、コウノトリれんこんカレー、コウノトリを育む肥料、コウノトリロゴバッグ、ピオトーブ米で作ったお酒（飯）、レンコンのピクルス等	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	農家、JA、地場産業の企業、県内企業、県内大学、官公庁	食品関係のコンサルタント、市場関係者、環境保全関係ブランドで成功している地域の仕掛け人等
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	コウノトリを支える地域が育んだ農業・産業を、コウノトリ認証農産物・ブランド商品として強く発信し、地域にカネを呼び込み、地域経済が活性化。活性化した経済は、地域経済の新たな担い手を呼び込み、ヒトとカネの循環を起こす。	